

第2回10月 東北大本番レベル模試 (2018年10月21日実施)

採点基準 英語

*この採点基準では、特に部分点・別解の判断を要する問題のみ取り上げています。

英語 配点表			
大問	配点合計	小問	配点
I	60	1	12
		2	12
		3	12
		4	12
		5	3×4
II	50	1	14
		2	8
		3	14
		4	14
III	40	1	4×3
		2	4×2
		3	20
IV	50	(A)	25
		(B)	25

大問 I, II 設問形式別採点原則

〔和訳形式〕

- (1) 基本的にはすべての部分的誤りと語句の無視は、個別に指定が無い限り $[-2]$ 。
- (2) 個別に指定許容された箇所以外のカタカナ訳は不可で 一語につき $[-2]$ とする。
- (3) 和訳という指示に従わず英単語をそのまま書いているものは、一語につき $[-2]$ とする。
- (4) 日本語の誤字は、別の意味にとられてしまうケースは $[-1]$ で、他は許容。
- (5) 各採点区分内で指定の点数を超えた時点で減点を行わない。
- (6) 区分された単位で意味が成り立たず、部分的減点が困難な場合は、その区分全体を0点。
- (7) 各採点区分の中で、途中で立ち消えた解答は、その区分については0点。解答が途中で終了していても、区分単位で完成しているものは採点対象。

〔内容説明形式〕

- (1) 基本的に下記の(3)(5)以外のすべての誤りは、個別に指定が無い限り $[-2]$
- (2) 語句の意味を誤ったものは個別に指定が無い限り $[-2]$
- (3) 採点枠内が部分的減点が難しいレベルで誤っているものは、配分点をすべて引く。
- (4) 個別に指定されたものと全訳で使われたものを除いてはカタカナ訳は不可で $[-2]$ 。
- (5) 日本語の誤字等は、同音の別の意味にとられてしまうケースは $[-1]$ で、他は不問
- (6) 各配点区分において、区分点を越えた減点を行わない。
- (7) 二重の減点を避ける必要がある場合、必須要素と無関係の部分からとった不要要素は無視し、必須要素の有無と正誤のみで採点。
- (8) 解答文の結びの巧拙は、減点対象としない。
- (9) 各採点区分の中で、途中で立ち消えた解答は、その区分については0点。解答が途中で終了していても、区分単位で完成しているものは採点対象。

大問 I

問 1 (12 点)

【解答例】

つい今月にイェール大学の研究が明らかにしたところによると、平均年齢 72 歳の 4,765 人の集団において、認知症に関係する遺伝子変異を持っているが、高齢化に対して前向きな姿勢も持っている人々は、認知症の遺伝子を持っていて老いることに、より悲観や怖れを抱いて向き合っている人々よりも、その疾患を発症する率が 50%低かった。

【配点と必須要素】

要素① A Yale University study just this month found that ... (2 点)

- (1) just this moth を「イェール大学の研究」にかけたもの ⇒ 許容
- (2) just this month 「つい今月に行われた」と補って「イェール大学の研究」にかけたも

の ⇒ 許容

(3) 「つい今月に行われたイエール大学の研究によれば〜が分かった」というスタイルの
訳 ⇒ 許容

(4) just を「ちょうど」と訳したもの ⇒ 許容

(5) Yale のカタカナ表記の適否は減点対象にしない。

(6) A を「一つの」と訳したもの ⇒ 「イエール大学」ではなく「研究」にかかると分かるものは許容。「イエール大学」にかかるとしかとれないものは不可。

(7) found that を「〜だと発見した」と訳したもの ⇒ 許容

(8) study を「勉強」としたものは不可。

(9) 修飾関係や主述関係など構文に関わる語訳は (−3)

*カタカナ表記した場合の減点

dementia ⇒ (−2)

aging ⇒ △ *アンチエイジングが使われているため

要素② in a group of 4,765 people with an average age of 72 (2点)

(1) group はカタカナ訳可。

(2) with 以下は people にかかると分かっているならば可

(3) 「72人の平均年齢」は (−2)

要素③ those who carried a gene variant linked to dementia — but also had positive attitudes about aging — were 50% less likely to develop the disorder than people who carried the gene and faced aging with more pessimism or fear. (8点)

(1) 「認知症に係る遺伝子変異だけでなく、高齢化に対して前向きな姿勢も持っている」という訳 ⇒ 許容 もちろん過去に訳してもよい。

(2) carried および had ⇒ 「(遺伝子が) ある」という訳も可。もちろん過去に訳してもよい。

(3) were 50% less likely は「確率(可能性)の低さ」だと分かるものは広く許容。

(4) develop ⇒ 「発達させる」は不可。

(5) the disorder ⇒ 「その疾患」「その病気」「その障害」など、認知症にあう訳語は広く認める。「認知症」「痴呆症」と具体化したものも可。

(6) dementia は「痴呆症」も許容。カタカナは不可。

(7) or は「あるいは」も可。

(8) 動詞の時制を現在に訳していても、他の動詞からトータルで過去のことだと分かれば可

問2 (12点)

【解答例】

健康のために一般的に良いとされている行為のリストに縛られず、年を取っても好きな仕

事に精力的に取り組みつつ余暇も楽しむことで、生き活きと長寿を享受している高齢の都市生活者の例。

【配点と必須要素】

要素① 「健康に一般的に良いとされていることに縛られない」

(別解例) 健康に関する通説(俗説)を無視する

- ・「健康に一般的に良いとされていること」に対応する内容の欠如は(－1)。
- ・「縛られない」に対応する内容の欠如は(－1)。

要素② 「仕事も遊びも一生懸命」

- ・「仕事」の欠如は(－2)。*「勉強」は許容。
- ・「遊び」の欠如は(－2)。
- ・「一生懸命」またはその類語の欠如は(－2)。

要素③ 「生き活きと長寿を享受している高齢の都市生活者」

- ・「生き活きと」または「健康に」の類語の欠如は(－2)。
- ・「長寿(高齢)」またはその類語の欠如は(－2)。
- ・「都市生活者」またはその類語の欠如は(－2)。

問3(12点)

【解答例】

保健制度、生涯学習の機会、公共交通機関、芸術文化が充実しており、また、他者との出会いの機会も多いから。

【配点と必須要素】

要素① 「保健制度(健康システム)」またはその類語の欠如は(－2)。

*「保険」の漢字ミスは△

要素② 「生涯学習の機会」またはその類語の欠如は(－2)。

*continued learning は「学習の継続」「継続的学習」は△。

要素③ 「広範な公共交通機関」またはその類語の欠如は(－2)。

*「公共交通の充実(便利さ)」などが別解例。「公共」の欠如は△。

要素④ 「豊かな芸術と文化」またはその類語の欠如は(－2)。

*abundance を abandonment と勘違いしたものは(－2)。

** arts, culture どちらかしか述べていないものは(－1)。

***「豊かな」は文脈からプラスイメージで使っているとわかるなら、なくても可。

要素⑤ 「他者との出会い」またはその類語の欠如は(－4)。

*「友人をつくりやすい」「孤独を避けられる」等も代用として認める。

**原則(7)の例外として、「田舎に住んでいて、人に会いたいときだけ都会に出てくる」という誤読があれば、(－2)とする。

問 4 (12 点)

【解答例】

その研究では、100 近い国々の27 万人の人々を調べ、家族と友人の両方が幸福とより良い健康に結び付いているが、人々が年を取るにつれて、その結び付きは強固な友情を持つ人々にのみ残る傾向があるということが分かった。

【配点と必須要素】

要素① The study looked at 270,000 people in nearly 100 countries (3 点)

(1) looked at ⇒ 「見た」は不可。

(2) nearly ⇒ 「約」「ほど」は△

要素② and found that while both family and friends were associated with happiness and better health, as people aged, the link tended to remain only for people with strong friendships. (9 点)

(1) while 節がどこまで続くかを誤読したものは(−2)。

(2) as people aged の誤訳 ⇒ 4 点まで減点可

⇒ as の誤訳(−2)

⇒ 節だと理解できていない(−4)

*[例] 年をとった人間として ←(−4)

(3) link のカタカナ訳(−1)

(4) the link の the の訳漏れは(−2)。

大問 II

問 1 (14 点)

【解答例】

奇跡に関する話を耳にした場合、それを信じる際の基準は、その話が嘘か間違いであることの方が話の内容より奇跡的である場合に限られるべきだということ。

【配点と必須要素】

要素① 「奇跡に関する話を信じるための基準」を述べている (4 点)

* 「奇跡」の欠如は[B]でカバーできていれば、なくても可。

要素② 「その話が嘘か間違いであることの方が話の内容より奇跡的である場合に限られる」を述べている (10 点)

☆(1)~(4)の欠如または誤りは各(−2)。

(1) 「話」はヒュームの使った「証言」も可。

(2) 「嘘」「間違い」はどちらかのみで可。ヒュームの使った falsehood (虚偽性) の訳も可。

(3) 「話の内容」は「話そのもの」「証言が立証しようとする事実」も可。

- (4) 「奇跡的」は「ありそうもない」などの類語を広く認める。
(5) 「Aの方がBより奇跡的である」のABが逆のものは(－6)。

問3 (14点)

【解答例】

現代人の目から見ればそれらの写真は明らかにねつ造品なのだが、当時、写真撮影がまだまだ全く新技術であった時代には、シャーロック・ホームズの生みの親である偉大な作家であるサー・アーサー・コナン・ドイルでさえもがだまされてしまい、他の実に多くの人々もまただまされたのだった。

【配点と必須要素】

要素① To modern eyes, the photographs are obviously fakes, (4点)

- (1) 「目から見れば」は「にとっては」も可。
(2) the の訳出もれは(－2)。
(3) fakes は「作り物」「まゆつば」「模造(品)」「いんちき」も可。

*カタカナ許容

要素② but at the time, when photography was still quite a new technology, (4点)

- (1) when を the time にかけて訳しても可。
(2) still, quite 共に訳もれは(－1)。
(3) technology は「技術」「科学技術」「テクノロジー」いずれも可。

要素③ even the great writer Sir Arthur Conan Doyle, creator of Sherlock Holmes, was taken in, and so were quite a lot of other people. (6点)

- (1) creator ⇒ 「作者」「創作者」も可。
(2) 同格を「別人」と誤読したものは(－2)。
(3) taken in ⇒ 「引っかかる」も可。
(4) quite の訳漏れは許容。
(5) so は「そうだった」「同じだった」も可。

問4 (14点)

【解答例】

(17世紀に)ある村で、一部の少女たちによる魔女に関する虚偽の目撃談と経験談が迷信深い大人たちによって信じられ、魔女だという嫌疑をかけられた人々が絞首台送りになったという出来事。

【配点と必須要素】

要素① 少女たちによる魔女に関する虚偽の目撃談と経験談が迷信深い大人たちによって信じられ, (8点)

- (1) 「少女たち」の欠如は(－2)。

- (2) 「魔女」の欠如は(−2)。
- (3) 虚偽の目撃(経験)談 ⇒ 「虚偽」の欠如は(−2) // 「目撃談や経験談」の欠如は(−2)。
- * 「目撃」「経験」のどちらかの欠如は(−1)。
- * 「魔女を見た」「魔女に魔法をかけられた」と具体化した場合も上に同じ。
- (4) 「大人たち」は「村人」「近所の人々」でも可。
- * コミュニティーのカタカナ訳は△。
- (5) 魔女の性別についての記述はなくても可。
- (6) 「信じられ」は「真に受け」「だまされ」などの言い換えも可。
- (7) 「周囲が信じた」という内容が無ければこの枠は0点。

要素② 魔女だという嫌疑をかけられた人々が絞首台送りになった(6点)

- (1) 「魔女だという嫌疑をかけられた人々」は「20人近く」でも可。欠如は(−4)。
- * ずばり「魔女」としたものは不可。
- (2) 「絞首台送りになった」は「死刑になった」「殺された」も可。
⇒ この要素の欠如は(−4)。
⇒ 「有罪になった」は(−2)。

大問III

問3(20点)

【英語面での減点の原則】

- (1) スペル, 大文字小文字, 記号の誤り ⇒ 一律 −1
- (2) 単語の誤り ⇒ −2
- (3) 冠詞と名詞の数の誤り ⇒ −1
- (4) 文法的誤り ⇒ −2
- (5) 英文として不成立で部分的減点が難しい場合は、「句・節」単位での一括減点 −4
- (6) 原文からの語句レベルの引用は可。但し、文単位で一語一句すべて丸写しは7点ずつ引いていく。
- (7) 設問と無関係な解答は0点

【解答例】

I think the commercialization of sport helps many talented athletes get financial support regardless of their backgrounds. The money from TV rights, for example, can be spent for scholarships for poor but talented young athletes. I'm afraid, however, it is likely to make sports a mere means of elite athletes earning money and will cause us to forget the educational aspects of sport.

【配点と必須要素】

要素① 「良い面」 ⇒ (10点)

要素② 「悪い面」 ⇒ (10点)

- (1) 先頭は **I think** なしで本題に入っても可。
- (2) ①② どちらから述べても可。
- (3) ①は「～の良い点は」または単に「良い点は」と述べていなければ(－2)。
* 「点」「面」につく冠詞は **a / that** どちらも許容。不可算名詞での使用は△。
- (4) ②は、(2)が上記のように述べられていれば、**on the other hand** などの対照表現でよい。
その場合「～の悪い点は」「悪い点は」と明記しなくても可。
- (5) 内容を一般化せず「自分にとって」しか述べていないものは①②それぞれ(－3)。

大問IV

(A) (25点)

〔例①〕 If we try to forget all we have heard about "green grass" and "blue skies" and look at the world as if we had just arrived from another planet and saw our planet for the first time, we will find that they have surprising colors.

〔例②〕 When we try to be completely free from our preconceived[common] ideas of "green grass" and "blue skies" and look at the world as if we had just arrived from another planet and were first seeing the earth, we are likely to be surprised at their colors.

【配点と必須要素】

要素① 「緑の草」や「青い空」について私たちが耳にしてきたことをすっかり忘れようとし(9点)

- (1) "green grass" "blue skies"のコーテーション(シングル/ダブルどちらも可) 欠如 ⇒各(－1)
 - (2) grass / sky ⇒ **UC** のどちらでとつても可。
* the がついてても可。
* **a green grass** のみ(－1)。
 - (3) 「耳にしてきた」⇒ **have listened to** は(－1)
*過去時制も許容。
 - (4) 「すっかり」を副詞で表す場合、置く位置は広く認める。
 - (5) カンマやピリオドはコーテーションマークの内外どちらに置いてても可。
- 要素②** 自分たちが他の惑星からちょうど到着し地球を初めて目にしたかのように世界を見ようとする(10点)

- (1) and の後に改めて不定詞の to を置いたものは△。
- (2) as if の後の「到着し」は仮定法過去完了以外は（－２）。
- (3) as if の後の「見た」は仮定法過去以外は（－２）。
- (4) 別の ⇒ the other planet は（－２）。
- (5) 「地球を目にした」は looked at や watched も可。
- (6) 「世界を見る」は try to があるので look at 以外は（－１）。
- (7) try to 欠如 ⇒ （－２）
- (8) the world の冠詞ミス ⇒ （－１）

（注）「見ようとするば」を仮定法未来のshould try ...で表したのも許容。その場合主節の助動詞は will / would どちらも可。b

要素③ それらが驚くべき色をしていることに気づくことだろう。（６点）

- (1) 驚くべき ⇒ marvelous, splendid, fantastic, amazing, astonishing, startling
* strange は△

- (2) 気づく ⇒ notice / discover / realize いずれも許容。
- (3) color の単複 ⇒ 文脈上、複数形以外は△を付す。

(B) (25点)

〔例①〕 In reality, gorillas live a more peaceful life than our species. According to Juichi Yamagiwa, a professor at Kyoto University, he saw a tiny gorilla walk close to a big male gorilla that was having lunch and ask him to turn over his spot.

〔例②〕 In fact, gorillas are more peaceful species than human beings. Juichi Yamagiwa, a Kyoto University professor, said that he had seen a small gorilla approach a large male gorilla at lunch and demand that he give him his spot.

【配点と必須要素】

要素① 現実にはゴリラは人類よりも平和的である。（６点）

- (1) 現実には ⇒ to tell the truth, really も許容。really の位置は広く認める。
- (2) ゴリラ ⇒ a, the, 複数形, どれも可。不可算名詞で書いたものは（－１）。
- (3) より平和的 ⇒ love peace more than ...も可。
- (4) 人類 ⇒ weも可。usは△。但し(3) のスタイルではusは（－１）。

*目的語で動詞での比較ととられると peace / us のペアが不自然。

- (5) 目撃談 ⇒ saw の代わりに looked at, watched, witnessed も可。

*look at O do/doing は不自然とするネイティブもいるが今回は許容。

** witness O doing は正用法。witness O do は好ましくないとされるが今回は許容。

*** according to ～や ～ said の後に “he saw” にあたる部分がなく「目撃」の意味が不十分なものは（－２）。

**** according to ～や ～ said がなく、いきなり ～ saw で導入したものは（－２）。

(6) 近づく ⇒ draw close[near] to , get close[near] to も可。

(注) gorilla のスペルミスは初出時のみ（－１）。

ゴリラの性別は不問。

要素② 京都大学の山極寿一教授の目撃談では （６点）

(1) Kyoto University の下線部が小文字 ⇒（－１）

(2) professor の冠詞 ⇒ a のみ可。the は（－１）

(3) 目撃談の直訳 ⇒ testimony △ , witness △

* testimony は法廷やキリスト教で使うのがふつう。

** witness は法廷で使うのがふつう。

*** 「目撃」部分は要素③に入れて採点しても可。採点に便利な方を採用。

要素③ 小さなゴリラが昼食中の大きなオスのゴリラに近づいて場所を譲るように要求した。 （１３点）

(1) 「小さなゴリラ」「大きなオスのゴリラ」の冠詞 ⇒共にaとする。the は（－１）。

(2) 「昼食中」に複数のミスが混じっていても（－２）に抑える。

(3) 〔例①〕型の he saw a tiny gorilla doで述べる場合 ⇒ doing は△。

(4) 〔例②〕型のsaid that he had seen a small gorilla do ⇒ had seen をsaw は（－２）。
⇒ do を doing は△。

(5) 昼食中 ⇒ during[in] lunch （－２）

* 「昼飯時に」と言い換えて during (a) lunch time としたものは△。

(6) 場所 ⇒ place でも許容。

(7) 譲る ⇒ 「立ち退く」と言い換え leave , go away のみで表したものは（－１）。